

■市川左團次(初代) 歌舞伎役者。三大名優の一人となり、{明治座}を新築、新歌舞伎が盛んに上演される先駆的役割。

いちかわさだんじ
天保改革弾圧1842=

大坂道頓堀で、歌舞伎役者の結髪師中村清吉の次男に生まれる。名は榮三。

阿部正弘首座1845= 3歳：

・・・1848= 6歳：市川辰蔵を名乗って_大坂の子供芝居で、初舞台をふみ、

尊徳報徳論・1851= 9歳：

ペリー来航・1853=11歳：

のち、七代目市川團十郎門下となり、初代市川小米、

桜田門外変・1860=18歳：

その後、初代市川升若を名乗って、修業するうちにその才能が周囲に認められ、

禁門の変・1864=22歳：*4代市川小団次に見出されて、その養子となり、左團次と改名。

薩摩藩士密航1865=23歳：_中村座「鶴寿亀曾我嶋台」で江戸お披露目。観客は、美しい容貌に湧くも、上方訛りには失望して野次られ、以後、不調となり、

薩長同盟・1866=24歳：_養父小団次が死去すると、舞台からも敬遠される身となり、小団次未亡人からも離縁されそうになったところ、河竹黙阿弥が身を預かってくれ、一から稽古を付け直されて、舞台に復帰。

明治維新・1868=26歳：

戊辰戦争終・1869=27歳：

初の日刊新聞1870=28歳：*守田座の黙阿弥作「樟紀流花見幕張」(「慶安太平記」)の鞠ヶ瀬秋夜(丸橋忠弥)役好演で人気役者となる。

明治6年政変 1873=31歳：

主として黙阿弥の新作史劇で活躍。容姿と台詞に恵まれ、堅実な芸風ですぐれた立役として、古典よりも新作史劇に本領を発揮。_「勸善懲惡視機関」の村井長庵、「勸進帳」富樫、「青砥稿花紅彩画」の南郷力丸、

西南戦争・1877=35歳：

大久保暗殺・1878=36歳：

明治14年政変1881=39歳：_初演「大杯觴酒戦強者」の馬場三郎兵衛、

国民之友始・1887=45歳：_初の天覧歌舞伎にも出演、

初の対等条約1888=46歳：*初演「籠釣瓶花街酔醒」の佐野次郎左衛門などを当たり役に、団・菊・左(市川團十郎・尾上菊五郎・左團次)と並び称される地位をきざき、

帝国憲法発布1889=47歳：

帝国議会始・1890=48歳：_ {新富座}の座頭(劇場専属の興行責任者)になる。

郡司千島探検1893=51歳：_日本橋浜町の{千歳座)を買収して跡地に{明治座)を新築し、座頭・座元として近代的な劇場経営を行う。

日清戦争始・1894=52歳：

日清戦争終・1895=53歳：

白馬会・・・・1896=54歳：

Bushidou・1899=57歳：_松居松葉(松翁)に依嘱して、明治座で初演した「悪源太」は、狂言作者以外の文学者の脚本を採用した嚆矢で、これが二代目左團次以降の新作歌舞伎の原動力となる。

日露戦争始・1904=62歳：_明治座「敵国降伏」の漁師弥藤太を最後の舞台に、新富町の自宅で、没した。温厚な人格者として周囲の尊敬を集め、新歌舞伎の隆盛にはたした役割は大きかった。